行啓陳者陸軍十年六月のよし電報を受けて母お菜
う前京一度お見舞矢じ母さまの大病も何ゆえ
処なくなりおてちおきのよ
らみか長い一昨日根岸の原さく御見舞
様ともに振俥よくちょ所ち何ものりくどもう分りて電信
ヲ受クシキと出るのみまて一向あらず日本全国なら探
しやらくちなりの半ヲ成に原さおきまて成に信
ちけあるの事迄なく夫ヲ大ち自の用り大芝居悪居
みばかりまて例のさ中の見舞ものもあらず新聞ハ又年の事のみ
まて喰ち帰京とも浜なりに大用所ち帰手あるおう
き銅とちちち白まで知らず

十六

本林田さくすると

金四郎

まま東京様くちゃ〇下チャン〇ア〜……イ
またやとちらもち生らくとも坊ちゃくまぬ子と衣服
円梅ち仕事のまて書ちとなるとさ〜ちと〜さん敬ち